

# 2021年度のテキストです

## 第5講 博物館とインターネット 1

本日の授業資料  
media2021\_5-1-3  
pdf×3

### 1. インターネットとは

#### 1) インターネットのおさらい

インターネット Internet は通信回線（実際には大半が電話回線）をとおして世界中のコンピュータを接続する仕組み。企業や大学のコンピュータは施設内で互いに通信回線で結ばれていた。多数のコンピュータが網の目のように結ばれているのでネットワーク（network 網状組織）が構築されていた。施設内のネットワークを LAN (Local Area Network) [地域ネットワーク] と呼ぶ。インターネットはこれらの地域ネットワークを結びつけた仕組みである。つまりネットワークのネットワークという意味でインター（inter 間の）ネット（net 網）と呼ばれる。英語では the Internet と大文字で始める。また日本語同様「ネット」 the Net という呼び方もする。

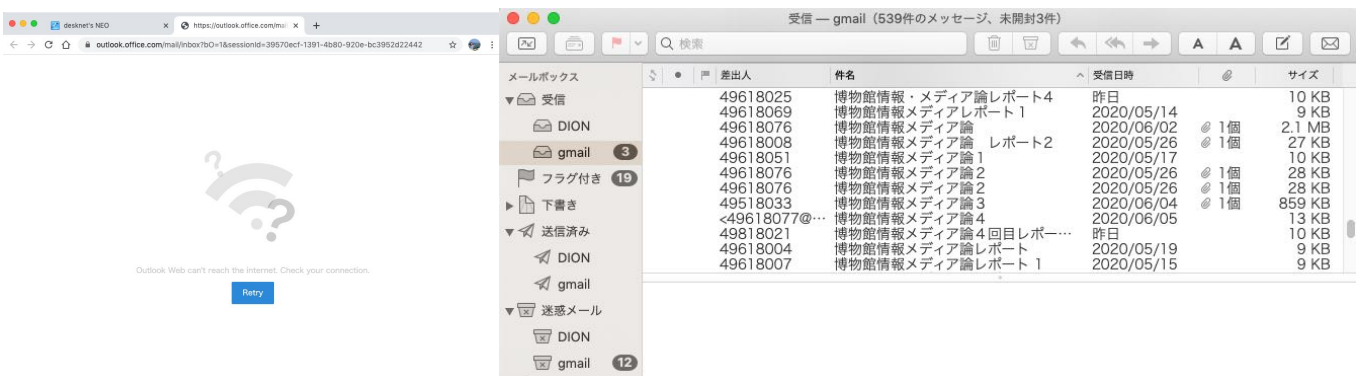
#### 2) 博物館が使うサービス

博物館が用いるインターネットのサービスは、情報交換の仕組みからすると、電子メール、ウェブ、FTPの3つである。ブログやYouTube、Facebookやtwitter、Dropboxや宅ふぁいる便などファイル転送サービスもウェブサービスである。大きくいえば、Chromeなどウェブブラウザ（インターネット閲覧ソフト）で使えるものはウェブサービスである。

ウェブサービスは情報を格納したサーバから閲覧者（クライアント）が情報を受け取るサービスで。クライアントは不特定多数である。ウェブページはテレビやラジオの番組のようなもので、ウェブページの集まりをウェブサイトという。URLではスラッシュの区切りをたどっていけばウェブサイトの大元にたどり着ける。

電子メール（eメール、メール）はメールサーバを用いるが情報の発信者は個人であり受け取るのも特定（複数の場合あり）の個人である。パソコンからパソコンへという情報の流れで完結し、ネット上のメールサーバからメールはいずれ削除される。メール自体はパソコン内のメールアプリ（メーラー）に保存され、オフラインでも閲覧可能である。それに対し、GmailやOutlook.com（農大メールはこれ）はウェブサービスを用いたウェブメールで、そのままでは個人の端末には保存されない。オフラインでは既存のメールも閲覧不可である。既存のメールをオフラインで使うには、Gmailなどに転送しメールアプリで受信しておく。

FTP（File Transfer Protocol）はデータの転送を主目的としたサービスで、博物館ではウェブサイトの更新などパソコンからサーバへのデータ転送に用いる。ウェブブラウザとは別のソフトを使用する。



左：オフライン（インターネット未接続）では農大メールは一度受信した後でも表示されない

右：Gmailに転送してメールアプリで受信すればオフラインでも利用可能。ちなみに件名でソートして整理するので件名は少しの間違いで再提出を求めている

### 3) スマホとパソコンでの違い

スマホはパソコンを小型化しカメラやGPS、加速度計を組み込み、音声回線での通話を可能にした装置 (device デバイス) である。本質的にパソコンと仕組みや機能おなじであるが、画面サイズと縦横比、ネットへの接続状況、そして身体装着性が異なる。

ネットサービスで考慮すべきは画面サイズと縦横比である。ウェブページでは簡便な方法があり、後の授業で学ぶ。ネット通販サイトや一部の動物園水族館などは、スマホベースのウェブページに以降してきている。

スマホのアプリ (ソフトも同意) の多くがインターネット常時接続か接続を前提にしたサービスである。オフラインで使用可能というアプリは常時接続不要である。スマホに比較するとパソコンはスタンドアロン (stand-alone 孤立 NetやLANなどネットワークへの接続をしない状態) で用いることが多い。スマホはサービスを受ける端末であるのに対し、パソコンは文書や画像を作成する用途が大きいことの反映である。

身体装着性はGPSを用いたサービスなどに現れる。ナビゲーションアプリなど位置情報を組み込んだサービス、万歩計や水準器など加速度計を組み込んだサービスはスマホ独自のものである。動物園ではスマホに連動した館内マップのサービスが始まっている。博物館や美術館でもスマホの特性を活かした館内サービスの開発が進むと思われる。なお、インターネット用と館内用にサービスを別々に開発する必要はない。共通化可能である。

## 2. インターネットはメディアか

### 1) インターネットはインフラ

インターネットメディアという言い方が存在する。これはインターネットを用いたメディアという意味である。この場合「メディア」とは情報を載せる媒体である。ではインターネットはメディアかと問われると、現在の回答は否 [いな] である。初期のインターネットではアプリを介さずに直接情報が行き来しておりメディアといえる状態であった。ちょうど音声回線の電話 (黒電話) がメディアであるのと同様だった。電話機を介して直接情報が行き来する、人が直接扱うものが電話機であり電話機は電話回線に直接つながっていた。現在のインターネットでの情報交換は、ウェブサイトや電子メール、SNSなどのアプリを介しておこなう。これらがメディアである。郵便というメディアに対する道路網のようなものだ。

### 2) Facebookはプラットフォーム、個々のページやチャンネルがメディア

ではSNSやブログサービス、YouTubeはメディアなのか。どうでもよい話に聞こえるが、そうではない。実際、ヨーロッパではFacebookがメディアかどうか実際に問題となったのである。EU域内の法律ではメディアにはフェイクニュースの規制などの情報管理の対応が義務づけられている。もしFacebookがメディアならば、フェイスブックに流れるフェイクニュースの規制はFacebook社の義務となる。しかし同社の創業者のザッカーバーグCEOは、Facebookはメディア (この場合はとくにニュースメディアを意識) ではなく、それらの媒体が用いる「プラットフォームである」と主張したのである。この考えではフェイスブック上の新聞社や放送局のフェイスブックページがメディアであり、情報についての責任はページ運営者でフェイスブックではない。

"フェイスブック、グーグルはメディア"、英政府が規制強化を検討 | ハフポスト

[https://www.huffingtonpost.jp/kazuhiro-taira/facebook-google\\_a\\_23243757/?utm\\_hp\\_ref=jp-feisubukku](https://www.huffingtonpost.jp/kazuhiro-taira/facebook-google_a_23243757/?utm_hp_ref=jp-feisubukku)

誹謗中傷や攻撃的な書き込み、名誉毀損や著作権侵害、威力業務妨害や偽計業務妨害などへの対処の責任者が誰かという場合に、そのサービス自体がメディアなのか議論になる。おなじ議論はYouTubeでも可能である。

### 3) 制御可能で独立性の高いウェブページ

上記の議論は現在も進行中であり、犯罪や悪質な書き込みへの対処はメディアかプラットフォームかに関わらず、一定程度求められるようになってきている。誹謗中傷で犠牲者が起っているツイッターも同様である。逆に過剰な規制が表現の自由を制限すること、自動処理によって人間の常識を越えた過剰な規制が生まれることもある。博物館では生物の標本や解剖の写真がそのような想定外の制限の対象となる可能性がある。

博物館には特定のプラットフォームを介さない独自のメディア、100%コントロール可能なメディアが望ましい。それがウェブサイトである。

ピューリツァー賞の写真を「児童ポルノ」として削除 Facebookが検閲撤回へ [https://www.huffingtonpost.jp/2016/09/10/kiddie-porn\\_n\\_11946664.html](https://www.huffingtonpost.jp/2016/09/10/kiddie-porn_n_11946664.html)

「ナバーム弾の少女」自由を求めて滑り込んだ空港のドア

<https://digital.asahi.com/articles/ASL9K4F31L9KUCF001.html>

### 3. 博物館のウェブサイト

#### 1) ウェブサイトは放送局

電子メールは通信である。特定の人に向けた情報伝達だ。他方、ウェブページは放送である。その心は不特定多数への情報公開。そして随時 [ずいじ：いつでもの意味] 閲覧可能、オンデマンドである。印刷物と比較すると、カラー図版が使える、動画や音声に掲載できる、検索可能、翻訳サイトの利用で多言語化が容易、無料あるいは低料金、場所を取らないという特徴を持つ。これらの特徴を活かした情報公開や利用を考えたい。

逆に言えば、写真や動画、音声のないサイトはつまらない。バナーなど画像化されて検索できない、翻訳できない、検索に不向きな言葉遣いのページは不便、無料で場所が不要なのに削除してはもったいない。

#### 2) ウェブサイトはアーカイブ

2000年頃のインターネット普及初期にはウェブページの速報性がもてはやされた。月1回のニュースレターや週刊誌、毎日発行の新聞さえも超えると。一方で蓄積の機能は現在も軽視または無視され続けている。公民館や図書館などの行事案内ページには、先月の行事や前年同月の行事を見たいと思っても遡れない、毎月ページごと削除あるいは上書きされる仕様のことがある。リンクが無いだけで、ページ自体がアクセス可能な状態で残っていれば、それらしいURLを打ち込んで到達可能であるが、完全にネット上から削除されるケースも多い。

5月催し物案内 | 教育・文化 | 網走市 <https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/270kyoiku/025geijutubunka/echo-events.html>

上記URLは昨年と同一のものである。末尾を見ると想像がつくが年月を示す数字がなく、毎月上書き保存

博物館の本務は資料の保存にある。ネット情報もおなじで、博物館こそ過去情報を保存し続ける責務がある。学芸員の大きな仕事である特別展も終わってしまうと残るものは図録だけ。展示は消えてしまう。後から見たい、もう一度見たいという要求に少しでも応えるには、展示会場の写真を掲載したウェブページを作成することだ。利用者へのサービスに加え、学芸員にとっても大切なページになる。

地方博物館のホームページ展開戦略 画像pdf 1.6 MB [http://nodaiweb.university.jp/muse/unisan/files/uni2001\\_homepage.pdf](http://nodaiweb.university.jp/muse/unisan/files/uni2001_homepage.pdf)

1999年の講話をもとに2000年に書いたもの (掲載は2001年)。古代のネット環境が伝わってくる



media2021\_5-2.pdf

### 3) コントロール可能な自主メディア

学芸員の発言が新聞やテレビで間違っただけで報道されることや意図的な改変が加えられることは日常茶飯事である。かつては訂正を広く知らせる方法が無く、博物館側は無力感を感じていたが、現在ではネットメディア利用すればある程度の情報訂正が可能となった。急ぐ場合はまずSNSで発言しておき、その後ウェブページで詳しい解説を加えると効果的である。つまりウェブページは博物館や学芸員が情報をコントロールできるメディアという特性を活かして利用の方法を広げていきたい。

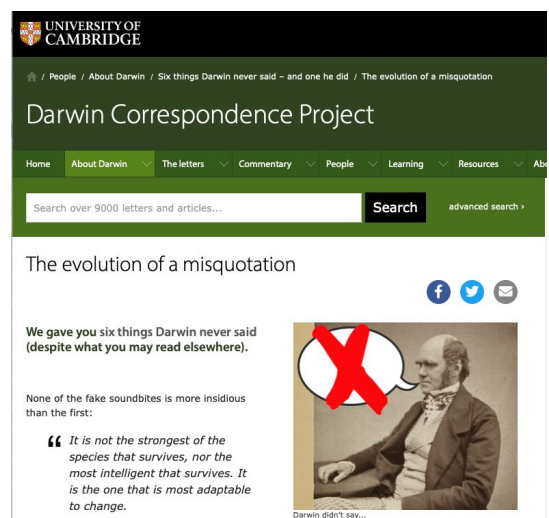
訂正は一過性のニュースや記事だけでなく、広く行き渡ってしまった誤解や間違いを正していく努力も可能である。こちらは偽情報が蔓延しているので相当困難ではあるが。

The evolution of a misquotation | Darwin Correspondence Project <http://www.darwinproject.ac.uk/evolution-misquotation>

ダーウィンとされる偽語録を収集し、その起源と進化を考察しているケンブリッジ大学のサイト。

ダーウィンの名言・言葉「種の起源」 | 名言+Quotes

<https://meigen-ijin.com/charlesdarwin/> もっとも著名な偽発言「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである」を掲載



### 4) 動画サービス

博物館の紹介動画やニュース的な報道映像は発展途上といえる。これは博物館の動画制作の態勢にある。外部の専門業者に委託して制作すれば数もクオリティも向上する。専門とは博物館の専門分野に精通した映像制作の専門会社という意味である。現在の博物館のネット動画は生物のクローズアップ映像のようなマニアックな内容のものに独自性が高く価値もある。

ブログ：日本のミュージアムの YouTube チャンネル リンク集と 1 行批評。 <http://unisan.jugem.jp/?eid=33>

## 4. 博物館のSNS

### 1) オープンとクローズド

SNSでもツイッターとフェイスブックでは情報流通の仕様が異なる。ツイッターは不特定多数に公開、フェイスブックはプラットフォーム内に閉じている。Google などの検索サイトを利用した場合、ツイッターは検索対象となるがフェイスブックは対象外である。

### 2) SNSは公式情報にならない

現状では博物館のウェブサイトは業務委託している場合があり、更新は月 1 回などの契約で即時更新ができない館園が存在する。その場合、即時性が求められる情報はSNSで発信していることがある。しかし、この場合にウェブページとSNSとで情報が異なる可能性が生じる。とくに臨時休館など重要な情報はSNSだけでなく、ウェブページでの公開が必要である。またSNSは古い情報に到達するのが困難なことも問題といえる。

よって博物館のネット上の公式情報はウェブページと考えておきたい。ところが課題満載である—授業で投影  
地方博物館のネット活用の現状と向上策:ウェブサイトと紀要の公開状況から (全日本博物館学会2021研究大会)

[media2021\\_5-3.pdf](#)